

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和元年 10月～12月実績

令和2年 1月～3月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 164企業（回答率99.4%）
6. 調査対象期間 令和元年10～12月期実績及び令和2年1～3月期見通し
7. 調査時点 令和元年11月15日（金）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.2%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.6%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	31.1%	100.0%
サービス業	52	31.5%	51	31.1%	98.1%
合計	165	100.0%	164	100.0%	99.4%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

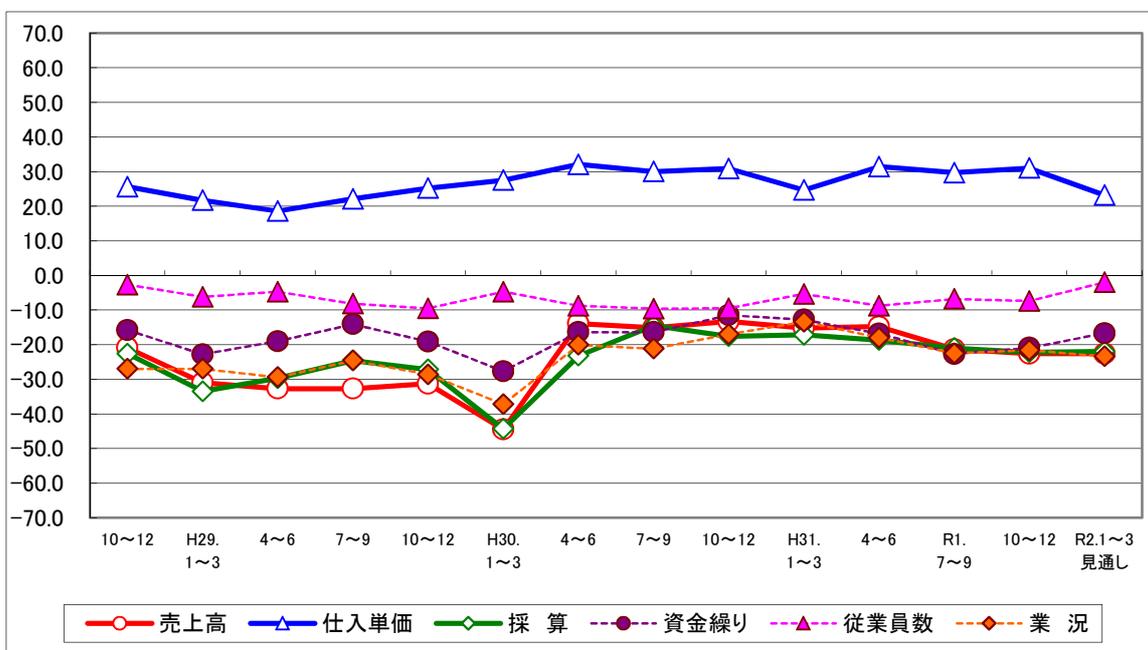
$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 教授 南保勝氏

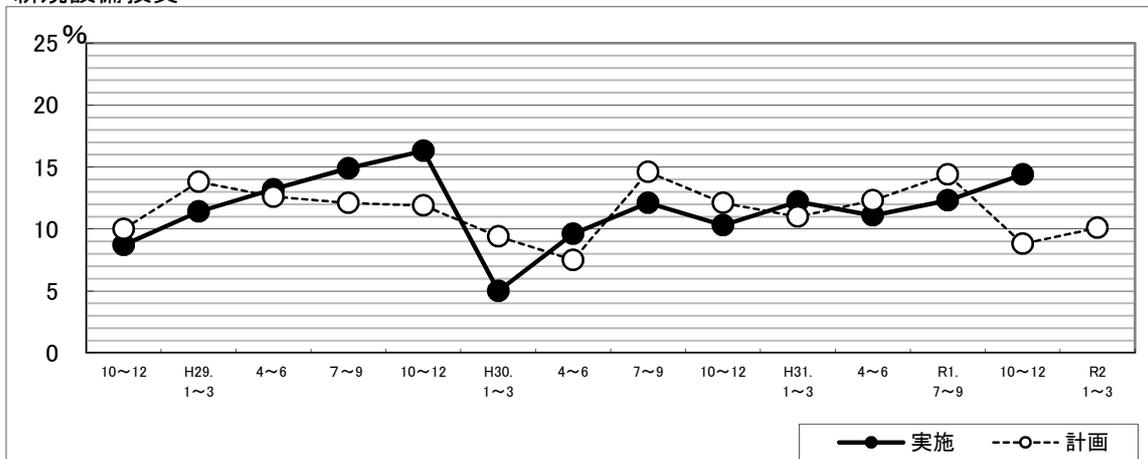
全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向推移(前年同期比:DI値)

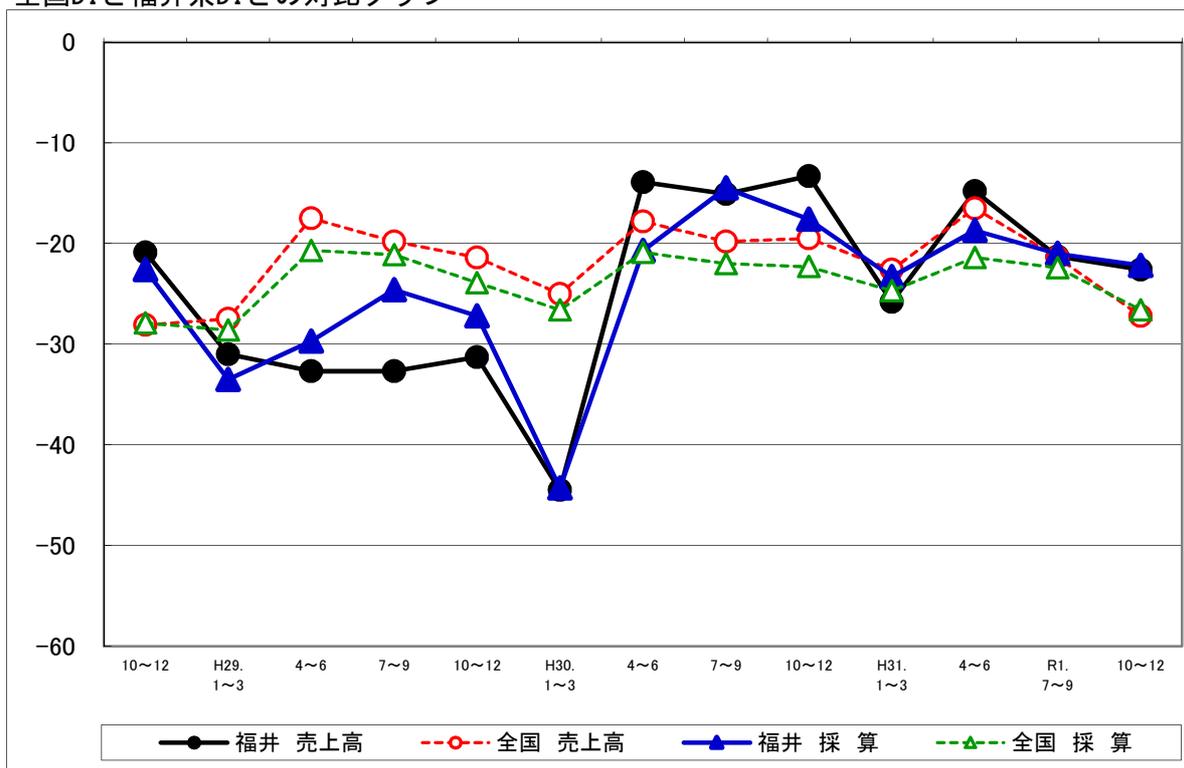
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
10~12	▲ 20.9	25.6	▲ 22.6	▲ 15.8	▲ 2.7	▲ 27.0
H29.1~3	▲ 31.0	21.7	▲ 33.5	▲ 22.8	▲ 6.2	▲ 27.0
4~6	▲ 32.7	18.6	▲ 29.7	▲ 19.0	▲ 4.7	▲ 29.4
7~9	▲ 32.7	22.1	▲ 24.6	▲ 14.1	▲ 8.2	▲ 24.6
10~12	▲ 31.3	25.2	▲ 27.2	▲ 19.1	▲ 9.5	▲ 28.6
H30.1~3	▲ 44.5	27.5	▲ 44.3	▲ 27.7	▲ 4.7	▲ 37.2
4~6	▲ 13.9	32.1	▲ 23.2	▲ 16.4	▲ 8.8	▲ 20.1
7~9	▲ 15.1	30.0	▲ 14.5	▲ 16.4	▲ 9.6	▲ 21.2
10~12	▲ 13.3	30.9	▲ 17.6	▲ 11.5	▲ 9.5	▲ 17.0
H31.1~3	▲ 15.2	24.7	▲ 17.2	▲ 12.8	▲ 5.4	▲ 13.4
4~6	▲ 14.8	31.4	▲ 18.7	▲ 16.8	▲ 8.8	▲ 18.0
R1.7~9	▲ 21.3	29.7	▲ 21.0	▲ 22.7	▲ 6.8	▲ 22.5
10~12	▲ 22.6	31.0	▲ 22.2	▲ 20.9	▲ 7.4	▲ 21.6
R2.1~3見通し	▲ 22.6	23.2	▲ 22.0	▲ 16.7	▲ 2.0	▲ 23.4



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R元年10-12月期の福井県経済を外観すると、需要面では、ドラッグストア販売が順調となっているほか百貨店・スーパー販売が緩やかに回復していること、住宅投資、設備投資、公共投資なども概ね増加していることなどから緩やかに拡大しつつある。一方、供給面では、電子部品・デバイスが足踏みの状況にあることや生産用機械が横ばいの状況にあることなどから、全体では横ばいの状況にある。こうした供給面での動きを考慮すると、県内経済は拡大のテンポが緩やかなものとなっているといえよう。

こうした中、今期（R元年10-12月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち2項目で改善、4項目で悪化となった。ちなみに、改善した項目は、資金繰り（前期▲22.7→今期▲20.9）、業況（前期▲22.5→今期▲21.6）で、悪化した項目は、売上高（前期▲21.3→今期▲22.6）、仕入単価（逆指数）（前期29.7→今期31.0）、採算（前期▲21.0→今期▲22.2）、従業員数（前期▲6.8→今期▲7.4）であった。今回の調査では、福井県の中小企業の場合、全体として業況の改善が弱い中、売上高の低下や仕入れ単価の上昇から、採算が悪化している事実が読み取れる。また、先行き（R2年1-3月期）については、売上高と業況を除く4項目で改善予測となっている。

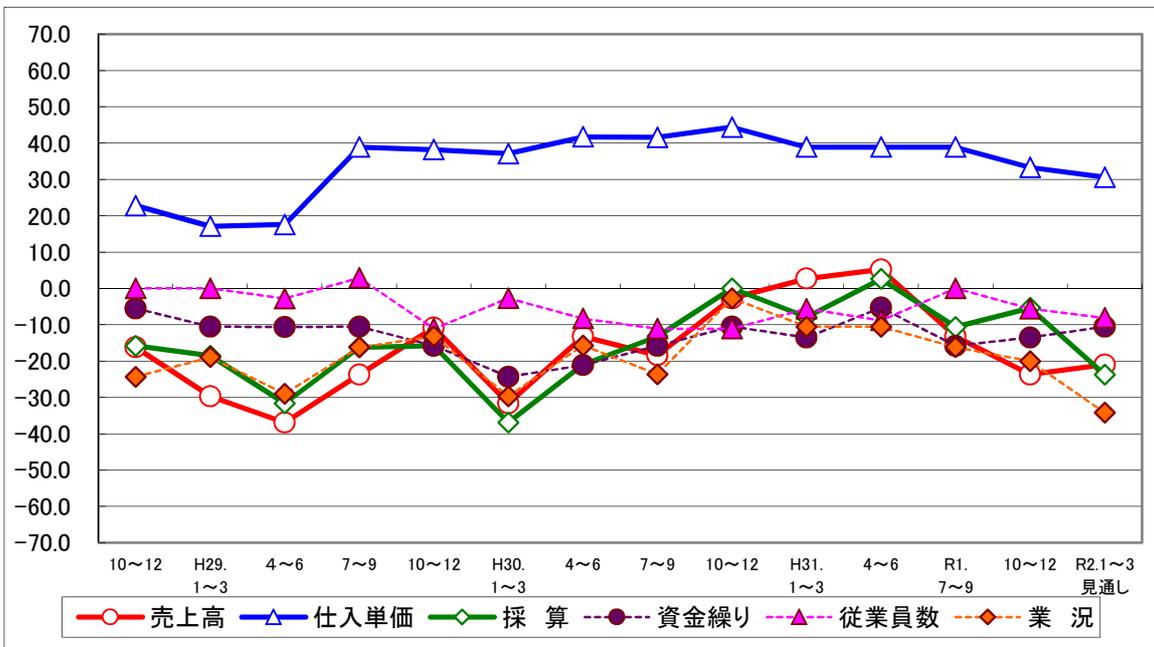
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、全国、福井県ともにそれらDI値は悪化傾向となっているが、福井県の場合、その落ち込みは全国に比べ緩やかなものとなっている。

そのほか、今期の新規設備投資については、何らかの設備投資を計画している企業ウエイト8.8%に対して実施した企業ウエイトが14.4%と、実施が計画を上回っている。また、先行き（R2年1-3月期）については、何らかの投資を計画する企業ウエイトが10.1%となり、投資マインドは横ばいで推移することが予想される。

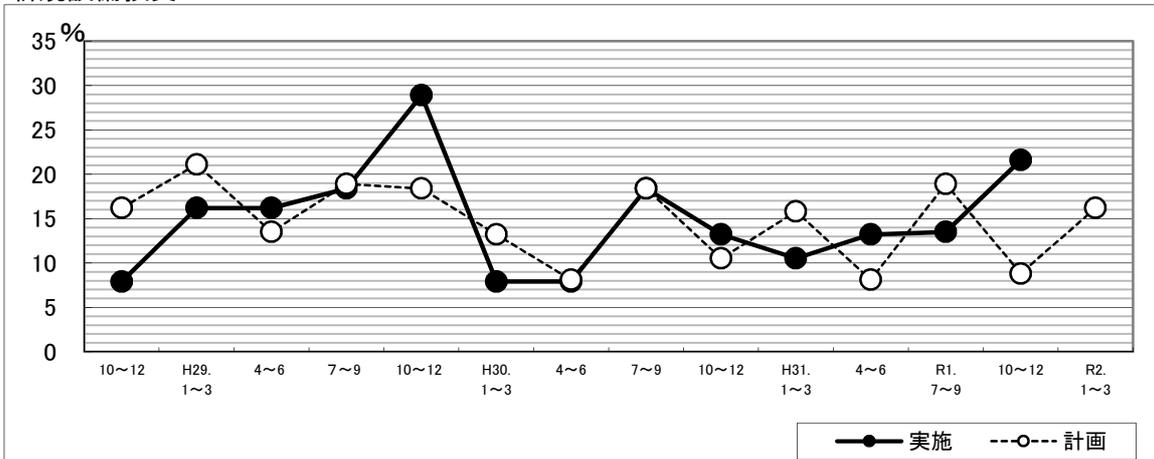
製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

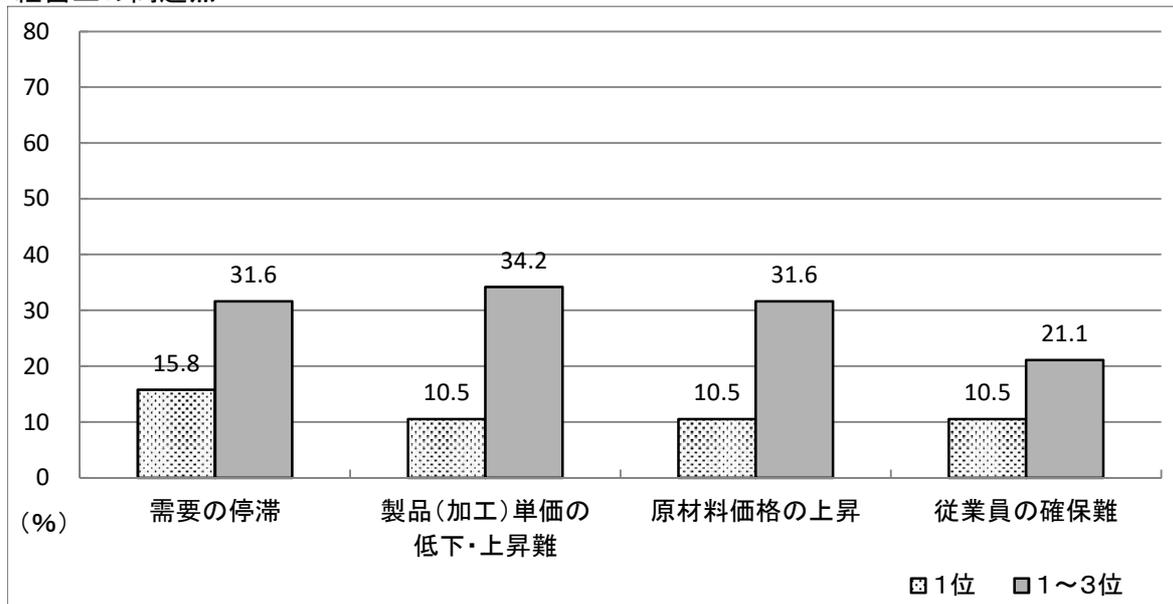
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
10~12	▲ 16.2	22.8	▲ 15.8	▲ 5.5	0.0	▲ 24.3
H29.1~3	▲ 29.7	17.1	▲ 18.5	▲ 10.5	0.0	▲ 18.9
4~6	▲ 36.9	17.6	▲ 31.6	▲ 10.6	▲ 2.8	▲ 29.0
7~9	▲ 23.7	38.9	▲ 16.2	▲ 10.5	2.9	▲ 16.2
10~12	▲ 10.8	38.2	▲ 15.8	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 13.2
H30.1~3	▲ 31.6	37.1	▲ 36.9	▲ 24.3	▲ 2.7	▲ 29.7
4~6	▲ 13.2	41.7	▲ 21.0	▲ 21.1	▲ 8.3	▲ 15.7
7~9	▲ 18.4	41.6	▲ 13.2	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 23.6
10~12	▲ 2.7	44.4	0.0	▲ 10.5	▲ 11.1	▲ 2.7
H31.1~3	2.7	38.9	▲ 7.9	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 10.5
4~6	5.2	38.9	2.6	▲ 5.3	▲ 8.8	▲ 10.5
R1.7~9	▲ 13.2	38.9	▲ 10.6	▲ 15.8	0.0	▲ 16.2
10~12	▲ 23.7	33.3	▲ 5.4	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 20.0
R2.1~3見通し	▲ 21.0	30.6	▲ 23.7	▲ 10.5	▲ 8.1	▲ 34.2



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・ 繊維業界全体の低迷と、輸送コストの増加により利益が減少している。
- ・ 売上、利益は前期並みに推移しているが、商談や引き合いが減少傾向で来期が不安。
- ・ 最低賃金上がる等経費増加するが、加工賃は上がりず厳しい状況。

製造業の景況

最近の県内製造業を外観すると、地場産業では、眼鏡枠で輸出がEU、米国向けともに前年割れとなっているほか、国内向けでは中国を中心とする低価格帯シフトが続いていることから、全体では弱含んでいる。繊維も衣料分野の不振に加え、これまで堅調を持続した非衣料分野で足踏み感が始めている。電子部品・デバイスも、スマートフォン向けで勢いを欠くほか、自動車向けも弱さがみられる。一方、化学・プラスチック工業は、合成樹脂等の化学製品や建築資材などが堅調となっているものの、医薬品が弱含んでいることから、全体では持ち直しのテンポが緩やかになっている。

こうした中、今期（R元年10～12月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち3項目で改善、3項目で悪化となった。ちなみに、改善した項目は、仕入単価（逆指数）（前期38.9→今期33.3）、採算（前期▲10.6→今期▲5.4）、資金繰り（前期▲15.8→今期▲13.5）で、悪化した項目は、売上高（前期▲13.2→今期▲23.7）、従業員数（前期0.0→今期▲5.6）、業況（前期▲16.2→今期▲20.0）であった。今回の調査結果からは、県内製造業の景況感が売上高の低下や従業員の確保難などから業況が悪化している事実が読み取れる。また、先行き（R2年1～3月期）についても、6項目中3項目で悪化予測となっている。

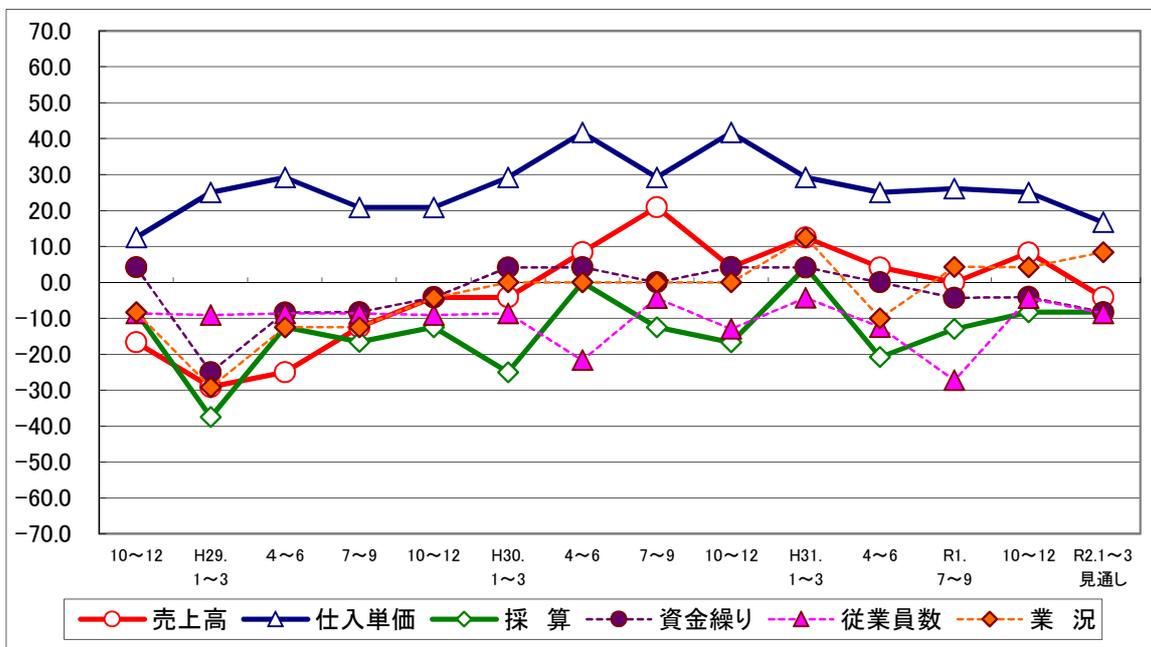
一方、新規設備投資の状況については、計画の8.8%に対し実施が21.6%と、実施が計画を大きく上回っている。また、先行き（R2年1～3月期）についても、何らかの投資を予定する企業が16.2%となり、前期並みの投資マインドが維持されるものと思われる。

最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「需要の停滞」で最も多く15.8%（1位～3位までに挙げた企業31.6%）を占めた。また、個別の見解としては、「繊維業界全体の低迷と、輸送コストの増加により利益が減少している」、「売上、利益は前期並みに推移しているが、商談や引き合いが減少傾向で来期が不安」など悲観的な声が目立っている。

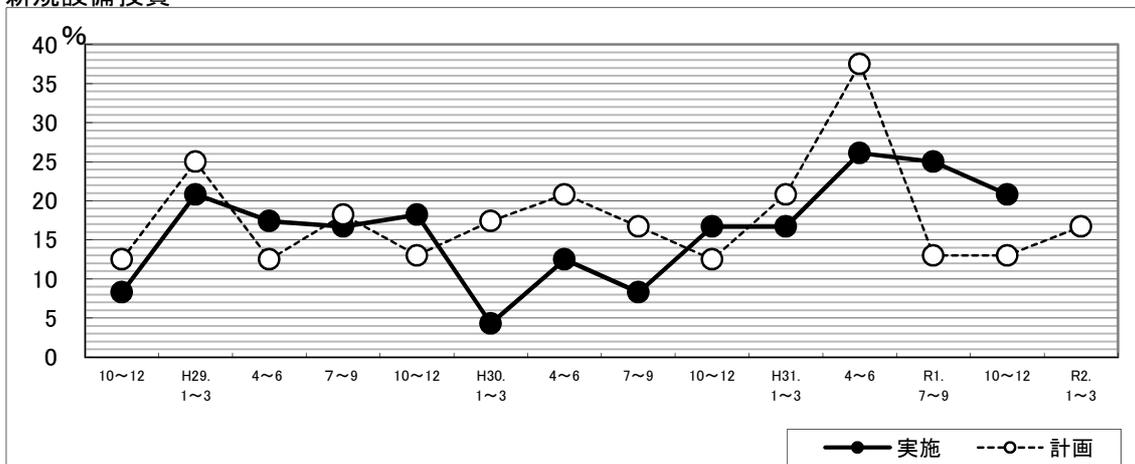
建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

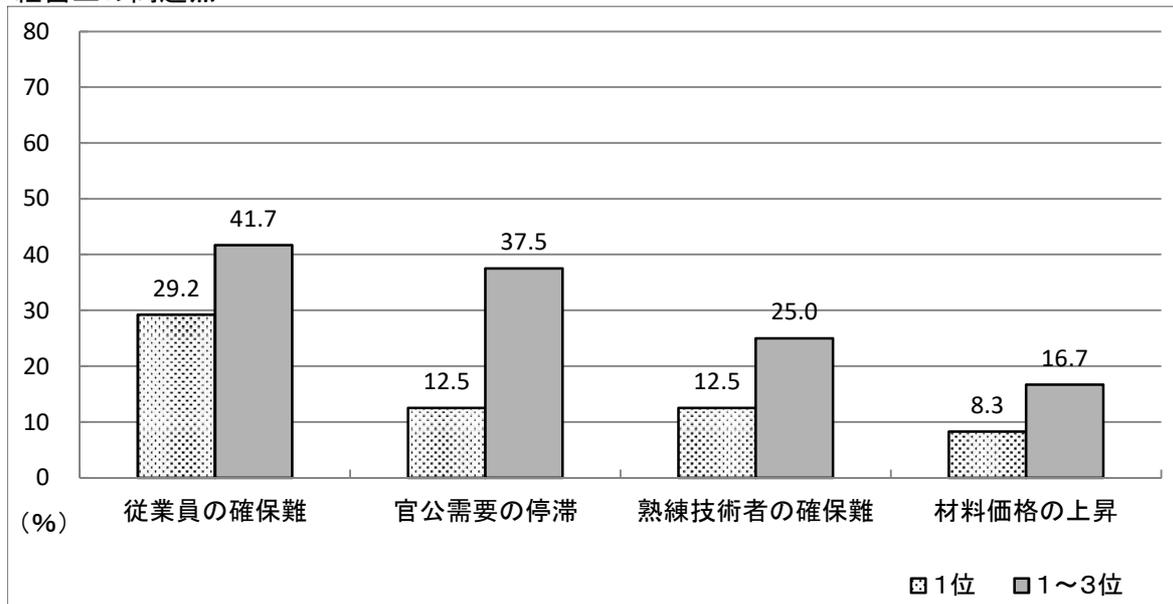
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
10~12	▲ 16.7	12.5	▲ 8.3	4.2	▲ 8.7	▲ 8.3
H29.1~3	▲ 29.1	25.0	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 9.1	▲ 29.2
4~6	▲ 25.0	29.2	▲ 12.5	▲ 8.4	▲ 8.7	▲ 12.5
7~9	▲ 12.5	20.8	▲ 16.6	▲ 8.3	▲ 8.7	▲ 12.5
10~12	▲ 4.2	20.8	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 9.1	▲ 4.3
H30.1~3	▲ 4.2	29.2	▲ 25.0	4.1	▲ 8.7	0.0
4~6	8.4	41.7	0.0	4.2	▲ 21.7	0.0
7~9	20.9	29.2	▲ 12.5	0.0	▲ 4.4	0.0
10~12	4.2	41.7	▲ 16.7	4.2	▲ 13.0	0.0
H31.1~3	12.5	29.2	4.2	4.1	▲ 4.3	12.5
4~6	4.1	25.0	▲ 20.8	0.0	▲ 12.5	▲ 10.0
R1.7~9	0.0	26.1	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 27.3	4.3
10~12	8.3	25.0	▲ 8.3	▲ 4.1	▲ 4.4	4.2
R2.1~3見通し	▲ 4.2	16.7	▲ 8.3	▲ 8.3	▲ 8.7	8.4



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・建設業界全体として人手不足しており、受注機会を逃すことも多い。
- ・従業員高齢化しており、若手雇用して育成していきたい。

建設業の景況

福井県内におけるR元年度（H31年4～R元年12月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で1,539億19百万円の前年同期比24.4%増、発注件数は同3,143件の同5.9%増となっている。これを主な発注者別でみると、県関連工事が413億24百万円の前年同期比8.9%増、市町村関連工事が345億44百万円の同18.0%増、独立行政法人等関連工事で601億13百万円の同29.1%増となっている。一方、住宅投資については、R元年4～11月期までの8か月累計で、前年同期比8.8%増の3,472戸であった。ちなみに、利用関係別では主力の持家が前年同期比0.4%増の1,866戸、貸家が同12.0%増の1,157戸となっている。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中5項目で改善が進んでいる。ちなみに、各項目をみると、売上高が前期0.0→今期8.3、仕入単価（逆指数）が前期26.1→今期25.0、採算が前期▲13.0→今期▲8.3、資金繰りが前期▲4.3→今期▲4.1、従業員数が前期▲27.3→今期▲4.4、業況が前期4.3→今期4.2となっている。この結果、県内建設業では、総じて順調な業況で推移していることがわかる。ただ、先行き（R2年1～3月期）については、3項目で悪化予測となっている。

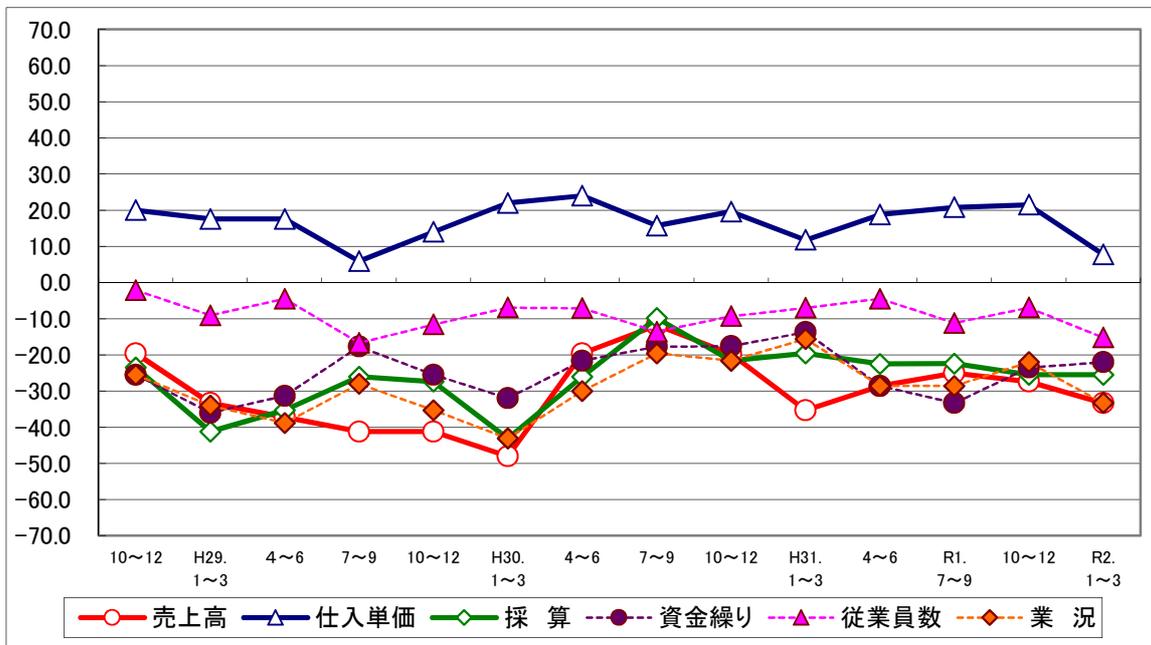
一方、今期の新規設備投資については、計画した企業13.0%に対し実施した企業が20.8%と実施が計画を大きく上回った。先行き（R2年1～3月期）については、何らかの投資計画を持つ企業が今期同様13.0%にとどまっている。

最後に、経営上の問題点については、「従業員の確保難」が1位に挙げた企業ウエイト29.2%、1位～3位までに挙げた企業41.7%を占め、最多となった。個別の見解を見ても、「建設業界全体として人手不足しており、受注機会を逃すことも多い」、「従業員高齢化しており、若手雇用して育成していきたい」といった雇用の確保に係る指摘が多く聞かれた。

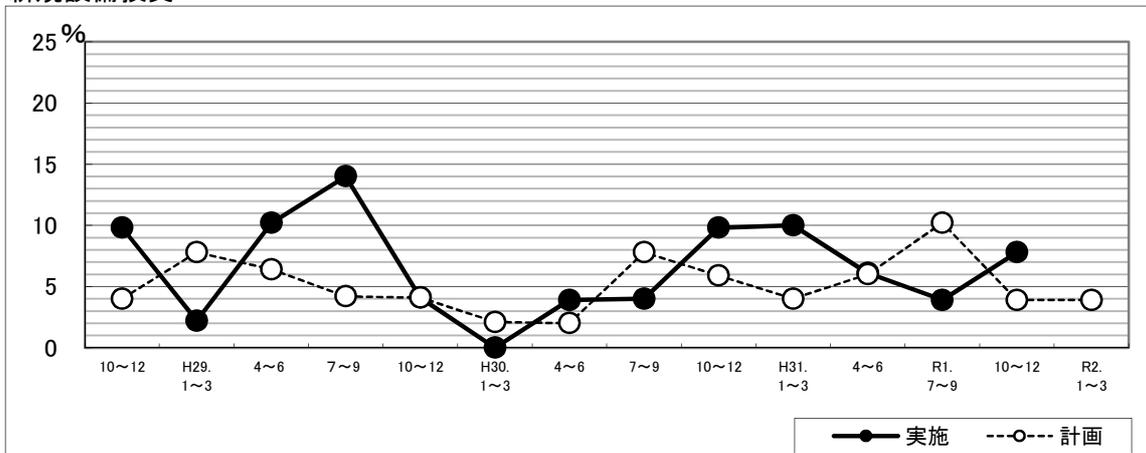
小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

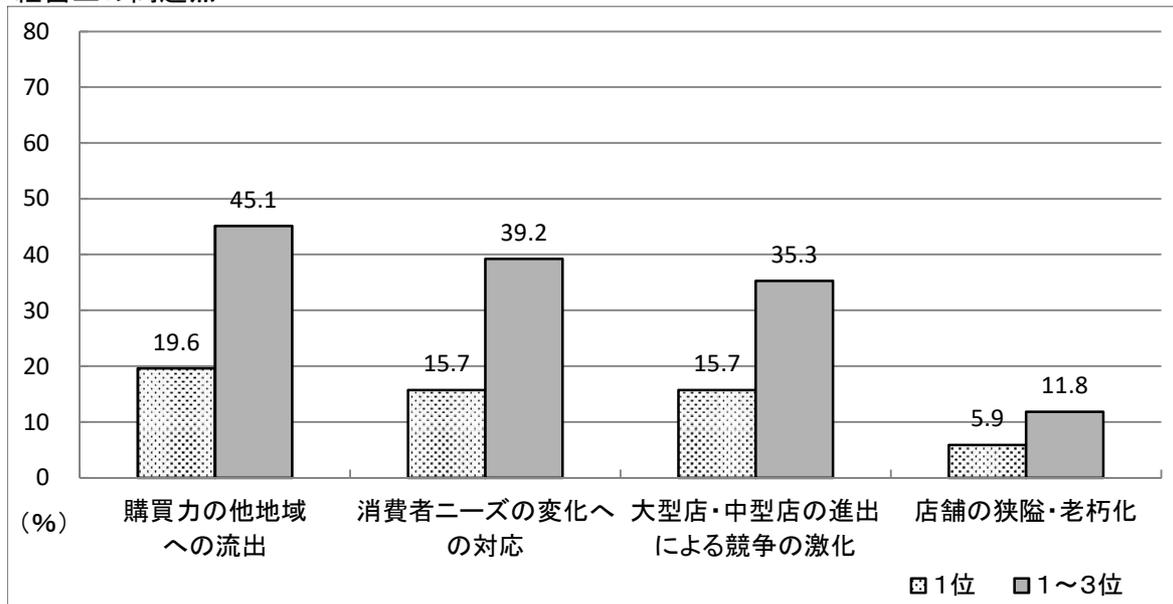
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
10~12	▲ 19.6	20.0	▲ 23.5	▲ 25.5	▲ 2.1	▲ 25.5
H29.1~3	▲ 33.3	17.6	▲ 41.2	▲ 36.0	▲ 9.1	▲ 34.0
4~6	▲ 37.2	17.6	▲ 35.3	▲ 31.3	▲ 4.5	▲ 38.8
7~9	▲ 41.2	5.9	▲ 26.0	▲ 17.7	▲ 16.7	▲ 28.0
10~12	▲ 41.2	14.0	▲ 27.4	▲ 25.5	▲ 11.6	▲ 35.3
H30.1~3	▲ 48.0	22.0	▲ 43.1	▲ 32.0	▲ 6.9	▲ 43.1
4~6	▲ 19.6	24.0	▲ 26.0	▲ 21.6	▲ 7.1	▲ 30.0
7~9	▲ 11.8	15.7	▲ 9.8	▲ 17.7	▲ 13.6	▲ 19.6
10~12	▲ 19.7	19.6	▲ 21.6	▲ 17.6	▲ 9.3	▲ 21.6
H31.1~3	▲ 35.3	11.8	▲ 19.6	▲ 13.7	▲ 7.0	▲ 15.6
4~6	▲ 28.6	18.8	▲ 22.5	▲ 28.6	▲ 4.5	▲ 28.6
R1.7~9	▲ 25.0	20.8	▲ 22.4	▲ 33.3	▲ 11.2	▲ 28.6
10~12	▲ 27.4	21.5	▲ 25.5	▲ 23.5	▲ 6.9	▲ 22.0
R2.1~3	▲ 33.3	7.8	▲ 25.5	▲ 22.0	▲ 15.2	▲ 33.3



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・最低賃金が上がっているが、売上増加が厳しい状況。大型量販店との競合で客足遠く業況は非常に厳しい。
- ・消費税増税分を価格転嫁できておらず、利益が減少している。

小売業の景況

最近の小売商況を外観すると、大型店（百貨店＋スーパー）では、暖冬の影響から季節衣料の動きが鈍く、ドラッグストアなどでも新規出店効果や店舗改装に伴う品揃え拡充による効果が薄れており、前年並みとなっている。参考までに、近畿経済産業局が公表するR元年11月の大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）をみると、前年同月比7.7%減の59億93百万円と2か月連続の前年割れとなった。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中、売上高、仕入単価、採算の3項目で悪化傾向を示している。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲25.0→今期▲27.4、仕入単価（逆指数）が前期20.8→今期21.5、採算が前期▲22.4→今期▲25.5、資金繰りが前期▲33.3→今期▲23.5、従業員数が前期▲11.2→▲6.9、業況が前期▲28.6→今期▲22.0となっている。また、先行き（R2年1-3月期）についても、売上高、従業者数、業況で悪化予測となっている。

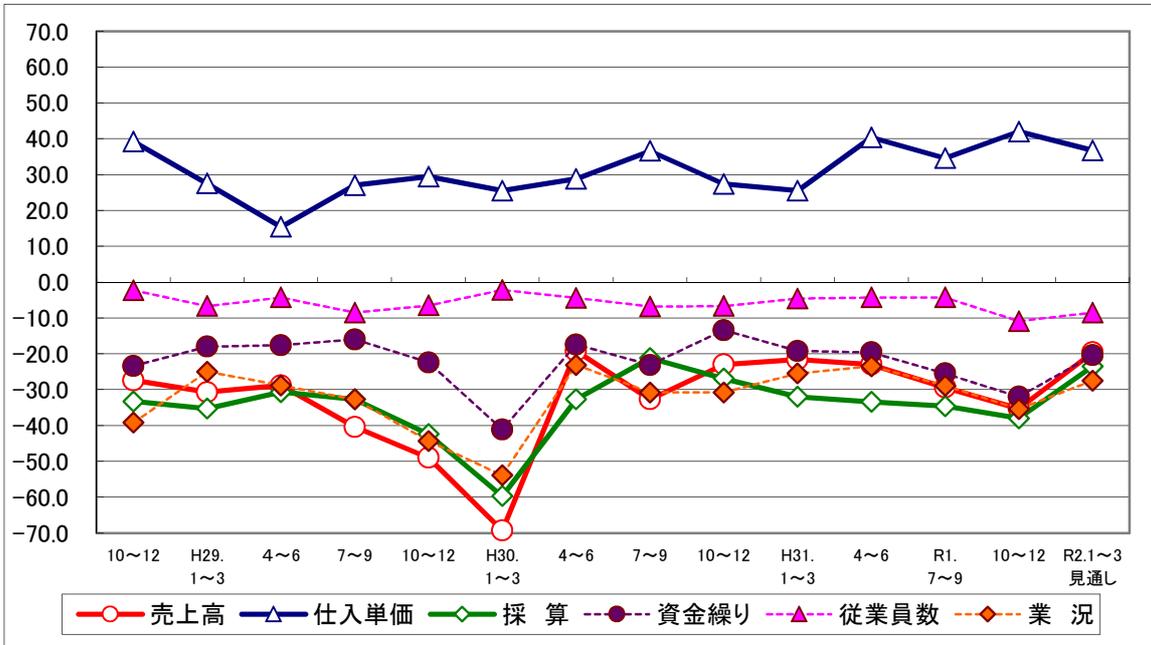
一方、新規設備投資の状況については、今期計画の3.9%に対し実施は7.8%となり、実施が計画を上回っている。ただ、先行き（R2年1-3月期）については、何らかの投資を計画する企業ウエイトが3.9%に止まり、引き続き投資マインドは低い。

最後に、経営上の問題点については、「購買力の他地域への流出」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト19.6%、1位～3位までに挙げた企業45.1%となった。そのほか、個別の見解として、「最低賃金が上がっているが、売上増加が厳しい状況。大型量販店との競合で客足が遠のくなど、業況は非常に厳しい」、「消費税増税分を価格転嫁できておらず、利益が減少している」など、悲観的な声が多く聞かれた。

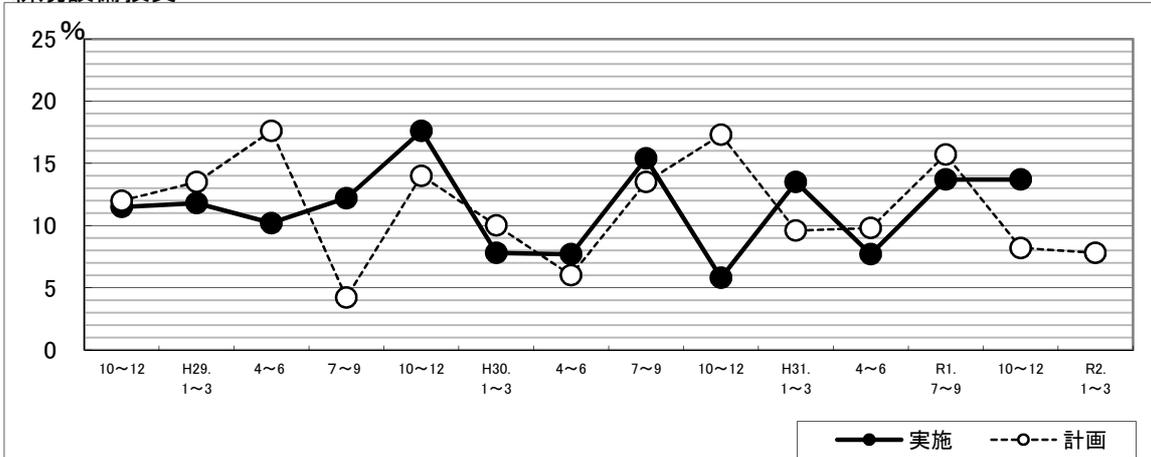
サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

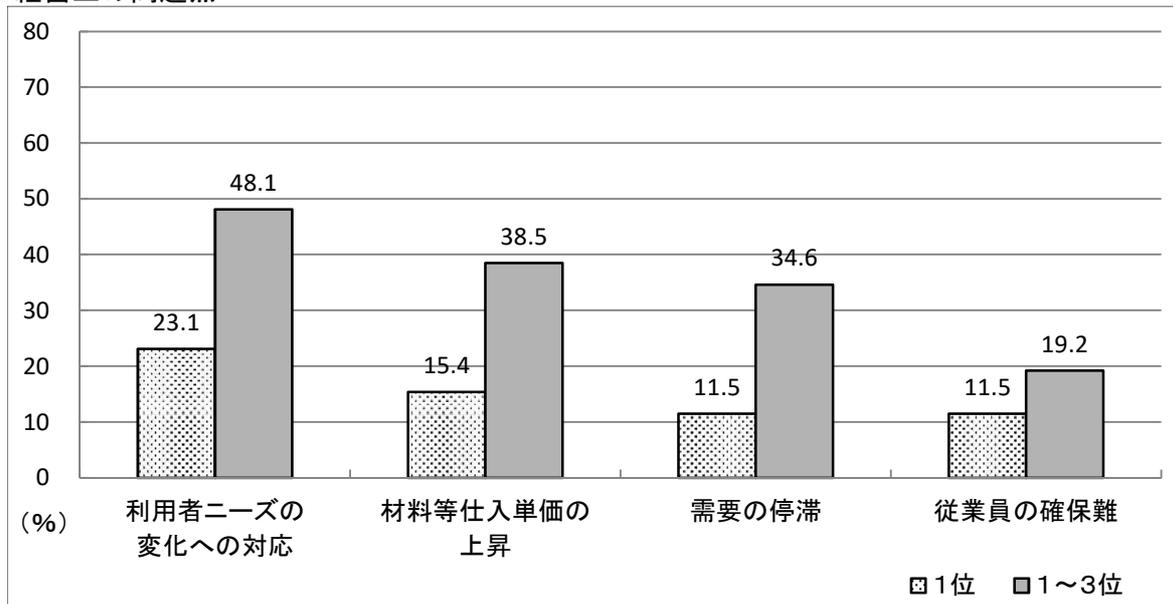
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
10~12	▲ 27.4	39.2	▲ 33.3	▲ 23.4	▲ 2.3	▲ 39.2
H29.1~3	▲ 30.7	27.5	▲ 35.3	▲ 18.0	▲ 6.7	▲ 25.0
4~6	▲ 28.8	15.4	▲ 30.7	▲ 17.6	▲ 4.3	▲ 28.8
7~9	▲ 40.4	27.0	▲ 32.7	▲ 16.0	▲ 8.5	▲ 32.7
10~12	▲ 49.0	29.4	▲ 42.4	▲ 22.4	▲ 6.5	▲ 44.3
H30.1~3	▲ 69.3	25.5	▲ 59.7	▲ 41.1	▲ 2.2	▲ 53.9
4~6	▲ 19.2	28.8	▲ 32.7	▲ 17.4	▲ 4.4	▲ 23.1
7~9	▲ 32.7	36.6	▲ 21.2	▲ 23.1	▲ 6.8	▲ 30.8
10~12	▲ 23.0	27.4	▲ 26.9	▲ 13.4	▲ 6.7	▲ 30.8
H31.1~3	▲ 21.6	25.5	▲ 32.0	▲ 19.2	▲ 4.6	▲ 25.5
4~6	▲ 23.0	40.4	▲ 33.4	▲ 19.6	▲ 4.3	▲ 23.5
R1.7~9	▲ 29.4	34.6	▲ 34.6	▲ 25.5	▲ 4.3	▲ 28.9
10~12	▲ 35.3	42.0	▲ 38.0	▲ 32.0	▲ 10.9	▲ 35.4
R2.1~3見通し	▲ 19.6	36.7	▲ 23.5	▲ 20.4	▲ 8.5	▲ 27.5



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・顧客の高齢化で来客数、来店頻度が少なくなっている。
- ・業況厳しいが、北陸新幹線の延伸に期待している。

サービス業の景況

総務省が毎月実施する「サービス産業動向調査」によると、全国におけるR元年10月の売上高は、30.9兆円で、前年同月に比べ2.5%の減少となった。これは、36か月ぶりの減少である。増加に寄与した主な産業をみると、「不動産業、物品賃貸業」で3.8兆円、前年同月比0.5%の増加。現象した産業は、「生活関連サービス業、娯楽業」（3.6兆円、同5.8%減）、「運輸業、郵便業」（5.6兆円、同3.8%減）など8産業を数えている。また、事業従事者数は、3,015万人で前月と同水準となった。

こうした中、今回の景況調査をみると、福井県の場合、DI値6項目すべてが悪化傾向を示している。ちなみに、項目別では、売上高が前期▲29.4→今期▲35.3、仕入単価（逆指数）が前期34.6→今期42.0、採算が前期▲34.6→今期▲38.0、資金繰りが前期▲25.5→今期▲32.0、従業員数が前期▲4.3→今期▲10.9、業況が前期▲28.9→今期▲35.4となっている。引き続き、福井県のサービス業は、厳しい環境にあることがうかがえる。ただ、先行き（R2年1-3月期）については、6項目全てで改善予測となっており、厳しい状況の中で多少なから改善へ向かうことが期待される。

一方、新規設備投資については、計画8.2%に対し実施が13.7%と、まずまずの水準となった。ただ、先行き（R2年1-3月期）についても、何らかの投資を考える企業ウエイトが7.8%と、今期並みの投資マインドが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「利用者ニーズの変化」（1位に挙げた企業ウエイト23.1%、1位～3位までに挙げた企業48.1%）への指摘が最も多い。また、個別の見解としては、「顧客の高齢化で来客数、来店頻度が少なくなっている」、「業況は厳しいが、北陸新幹線の延伸に期待している」等、多様な声が聞かれた。

全国・福井景気動向 令和元年10月～12月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 27.2	32.4	▲ 26.6	▲ 15.5	▲ 4.5	▲ 22.2
	製造業						
	DI値	▲ 26.4	44.1	▲ 27.4	▲ 15.2	▲ 18.1	▲ 26.0
	建設業						
	DI値	▲ 3.8	51.6	▲ 12.2	▲ 2.8	▲ 36.2	▲ 2.0
	小売業						
	DI値	▲ 42.1	32.2	▲ 35.2	▲ 22.4	▲ 11.9	▲ 40.1
	サービス業						
	DI値	▲ 25.2	46.6	▲ 25.7	▲ 15.9	▲ 18.5	▲ 25.5
福井	全体						
	DI値	▲ 22.6	31.0	▲ 22.2	▲ 20.9	▲ 7.4	▲ 21.6
	製造業						
	DI値	▲ 23.7	33.3	▲ 5.4	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 20.0
	建設業						
	DI値	8.3	25.0	▲ 8.3	▲ 4.1	▲ 4.4	4.2
	小売業						
	DI値	▲ 27.4	21.5	▲ 25.5	▲ 23.5	▲ 6.9	▲ 22.0
	サービス業						
	DI値	▲ 35.3	42.0	▲ 38.0	▲ 32.0	▲ 10.9	▲ 35.4

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

